

1. もくじ

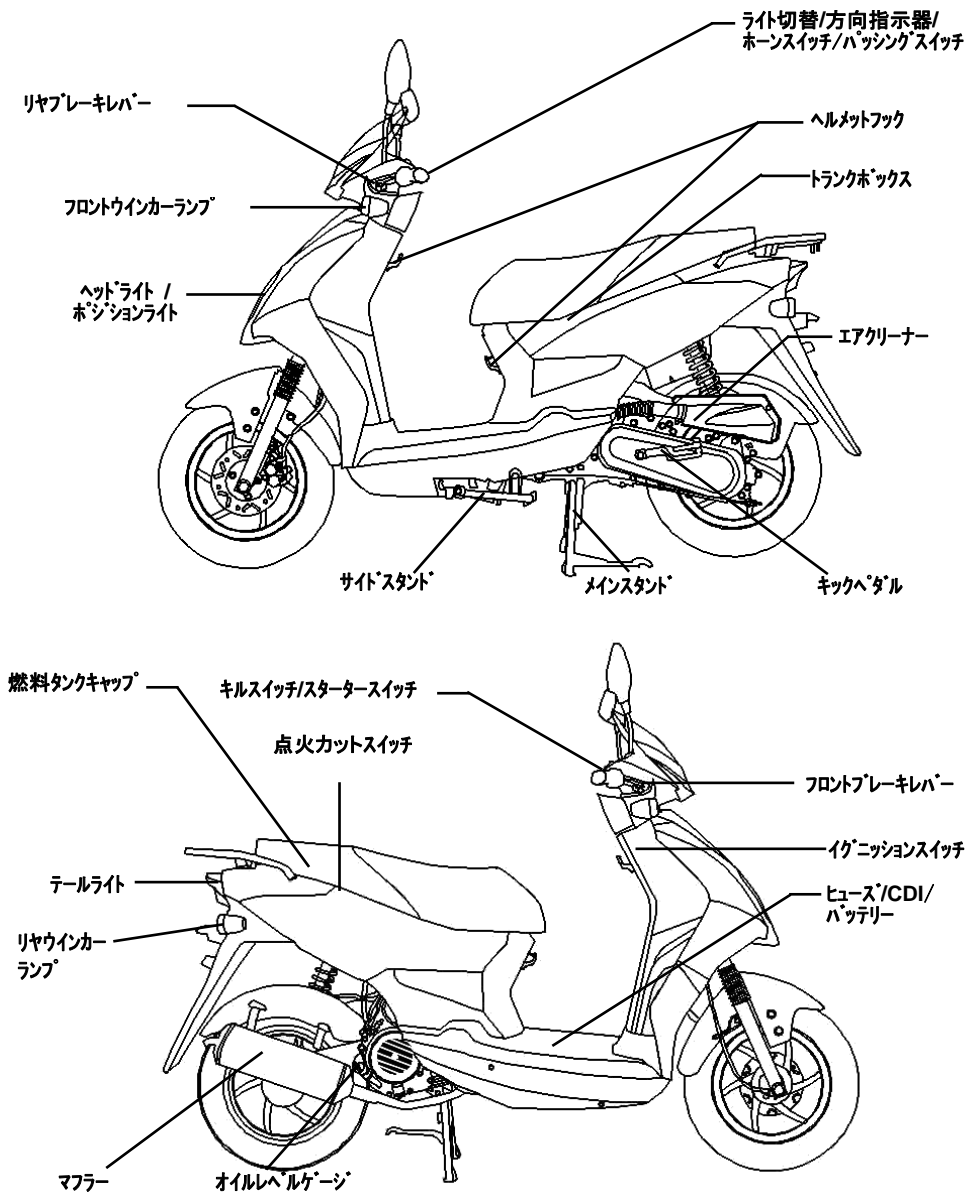
1. もくじ	1
2. コントロールロケーション	3
3. ご乗車前に	4
4. 安全運転	4
5. ドライビング	5
6. 純正スペアパーツの使用	5
7. 各種機能の使い方	6
メーター	6
イグニッションスイッチの操作	7
ハンドルロックスイッチの操作	7
シートオープナーの操作	7
スイッチの使い方	7
トランクボックス	9
フック	10
燃料タンクキャップ	10
ブレーキ	10
8. エンジン始動前の注意事項	11
9. 正しい走り方	12
スロットルバルブコントロール	12
停車するとき	12
10. 乗車前の点検とメンテナンス	13
日常の点検	13
エンジンオイルの点検と交換	13
ガソリンの点検	14
トランスミッションオイルの点検と交換	14
ブレーキ遊びの点検と調整	15
ディスクブレーキの点検	16
スロットルバルブ遊びの調整	17
バッテリーの点検とメンテナンス	17
タイヤの点検	18
フロントサスペンションの点検	18
ヒューズの点検と交換	19
方向指示器とホーンの点検	19
ヘッドライト及びリヤライトの点検	19
ブレーキライトの点検	19

1. もくじ

ガソリン漏れの点検	20
車両各部の潤滑系機構の点検	20
スパークプラグの点検	20
エアクリーナーの点検	20
11. こんなときは	21
エンジンが始動しないとき	21
12. C.D.I. 点火システム	21
13. ガソリンについて	21
14. トランスミッションオイル	21
15. 運転時の注意	22
16. 定期メンテナンススケジュール	23
17. 諸元表	24

2.コントロールロケーション

MODEL: AV05W1-7



2. CONTROL LOCATION

3.ご乗車前に

このマニュアルでは、このスクーターの正しい使い方とともに、簡単な点検方法などをご紹介します。

車両の取扱いに慣れた方も、独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱い説明書をお読み下さい。

お買い上げの SYM 特約店に操作方法をお尋ねいただき、つぎの箇所を注意してお読み下さい。:

- 正しいスクーターの使い方
- 乗車前点検とメンテナンス


ご愛用を感謝いたします

あなたのスクーターの性能を最大に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込みのうえ、初期点検をおこなって下さい。その後は走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

- 車両の仕様、その他の変更によりこの取扱説明書の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承下さいませようよろしくお願いいたします。

4. 安全運転

走行時にはリラックスして、運転に適切な服装であることが大変重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に多くの人は新車購入時はとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります。

-  **忘れないで下さい:**
- 乗車時はヘルメットを必ず着用して下さい。また、あご紐はしっかりと締めて正しくかぶりましょう。
 - すその広いズボンや袖口の広いジャケットはブレーキ操作など、運転操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けて下さい。
 - 袖口のびったりした服装を心がけて下さい。
 - 走行時にはハンドルを両手で握って下さい。絶対に片手運転はしないで下さい。
 - 制限速度は必ず守って下さい。
 - かかとが低く、くるぶしまで覆う靴を着用して下さい。
 - **スケジュールに従って定期点検とメンテナンスを必ずおこなって下さい。**

警告!!

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーでヤケドをしないように必ず後部乗員がペダルに足を置くことを確認して下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時はヤケドをしないようにくれぐれも注意して下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーでヤケドをしないように車両を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。

ご注意:

スクーターの改造はその構造や性能に悪影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります。また、保安基準に適合しない改造は絶対におやめ下さい。改造車両は保証修理の対象外になりますので、ご注意下さい。

5. ドライビング

- 走行にあたっては、身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。
- 運転者の姿勢は安全走行に大きく関係します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られるようになります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。
- ターンする時は運転者が身体をターンする方向に傾けるとよりターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車両を傾げないと運転者は不安定に感じます。
- でこぼこ道、未舗装道路での二輪車の操作は難しいので、事前に道路状態を察知するようにして下さい。そしてスピードを落として、ハンドル操作には肩の力を抜いて走行しましょう。
- **お願い：** 不用意にステップフロアの上に物を置かないで下さい。安全走行の妨げにもなりますし、ハンドル操作にも影響します。

ご注意：

荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積み過ぎるとハンドルがとられて運転を誤る事がありますので、積み過ぎに注意しましょう。

ご注意：

- 布きれ等燃えやすい物をボディカバーとエンジンの間に置いたりしないで下さい。部材が火気により損傷を受ける恐れがあります。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車両を傷めます。

ご提案

慣らしはスクーターのパフォーマンスを活かし、寿命を延ばします：
最初の1ヵ月、1000km はエンジンや構成部品の慣らし期間です。
急加速や全開走行は避けて下さい。

6. 純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性のももとのデザインが要求するものに適合する必要があります。"SYM 純正スペアパーツ"は現二輪車に使用された物と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通して生産される"SYM 純正スペアパーツ"を"SYM 特約店"からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

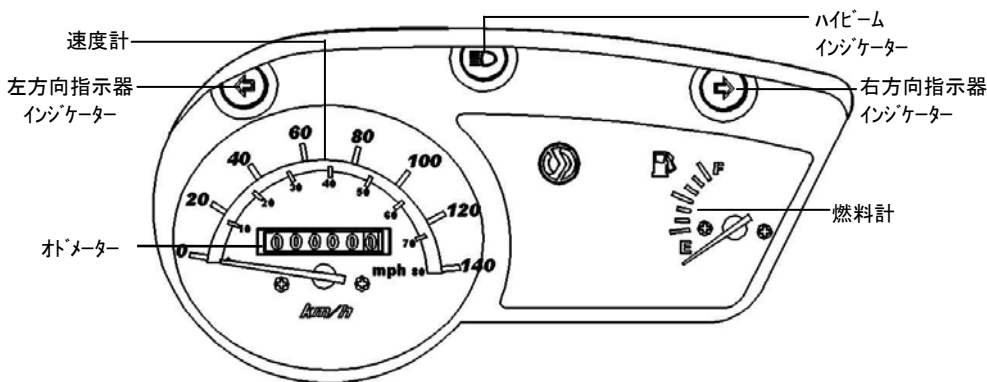
- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように **SYM 純正スペアパーツ**を使用しましょう。

7.各種機能の使い方

(以下の説明は SYM 4 stroke air-cooling 50 c.c. SYMPLY50 の基本操作です。)

§メーター §

メーター表面のデザインは仕様により異なる場合がございますが、一般的機能は同じです



⚠ ご注意:

プラスチック部品(メーターレンズ、ヘッドライトレンズ、ウインカーレンズなど)をガソリンなどの有機溶剤で拭かないで下さい。変色や変形を起こす恐れがあります。

- スピードメーター：**
 走行中の速度を表示します。法定速度を守りましょう
- オドメーター：**
 総走行距離を表示します。
- ハイビームインジケター：**
 ヘッドライトをハイビームにした時に表示されます。
- 方向指示器インジケター：**
 ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅して表示します。
- 燃料計：**
 このメーターは燃料がどれくらい燃料タンクにあるのかを表示しています。キーが"OFF"の時は"E"の位置にあります。

§イグニッションスイッチの操作 §



“ON” 位置:

- この位置でエンジンは始動できます。
- キーは抜き取る事はできません。



“OFF” 位置:

- エンジンを止めたり、始動しない時はこの位置です。
- キーは抜き取る事ができます。

§ハンドルロックスイッチの操作 §



“ハンドルロック” 位置

- ステアリングハンドルを左に向けて下さい。そしてキーを挿入し、押して下さい。それから”ロック”位置に向けて左にキーをまわして下さい。
- ステアリングハンドルはこの位置でロックされます。
- キーは抜き取る事ができます。
- ロックの解除は”ロック”位置から”OFF”位置にキーを回すと解除できます。

イグニッションスイッチ



⚠️ ご注意:

- シートをロックする前にキーを必ず取り出して下さい。

§シートオープナーの操作 §



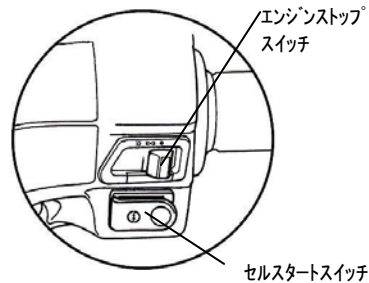
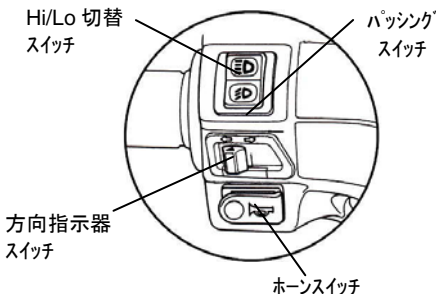
“シートオープン” 位置

- キーをメインスイッチに挿入して下さい。
- キーを反時計回りに”シートオープン”位置まで回して下さい。
- シートが開きますので、荷物の出し入れや燃料の給油ができます。

⚠️ ご注意:

- 車両が走行している時はイグニッションスイッチを決して操作しないで下さい。イグニッションスイッチを”OFF”や”LOCK”位置にする事は電気システムを閉ざし、事故につながる恐れがあります。車両が完全に停止したのちにイグニッションスイッチを OFF するようにして下さい。
- 車両から離れる時はハンドルロックをして、キーは必ず取外すようにして下さい。
- エンジンを停止させた後、イグニッションスイッチを長い間”ON”位置のままにしておきますとバッテリーの電圧が低下いたします。このような状態になりますとエンジンの始動性に影響を与える恐れがありますのでご注意下さい。
- シートをロックする際には、ラゲッジボックス内へのキー閉じ込みには充分にご注意下さい。

§スイッチの使い方 §



• エンジンストップスイッチ



この位置にするとエンジンをかけることができます。

通常はこの位置でご使用下さい。



緊急時にエンジンを停止させたい場合、この位置にするとエンジンは停止します。

• セルスタートスイッチ



スターターモーターでエンジンを始動します。

メインスイッチを”ON”位置にし、前輪又は後輪のブレーキをかけた状態でスイッチを押して下さい。

ご注意:

- エンジン始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。セルボタンを押し続けるとエンジンを傷める恐れがあります。
- この機構には安全機構があり、前輪か後輪のブレーキをかけていないと始動しないシステムになっています。

• Hi/Lo 切替スイッチ

このスイッチはヘッドライト光軸の上下を切替ます。



ハイビーム



ロービーム(市街地での走行はロービームをご使用下さい)

• パッシングスイッチ

PASSING

イグニッションスイッチを”ON”の位置でこのスイッチを押して下さい。押している間、ヘッドライトはハイビームになり、他の車両などに合図を送ることができます。(作動中はメーター内にハイビームインジケーターが点灯します。スイッチを離すとロービームに戻ります。)

ご注意:

- シートロックをした後はキーを抜き取ることを忘れないで下さい。
- キーをシートボックス内に置かないようにして下さい。シートが勝手に閉まってシートロックされてしまうとキーが取れなくなる恐れがあります。

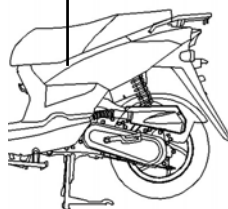
- 点火カットスイッチ

このスイッチはシートの下にあります。

“ON” 位置: エンジンの始動はロックされて始動する事は出来ません。

“OFF” 位置: 点火カットスイッチが“OFF”位置にある時にイグニッションスイッチを“ON”位置にしてブレーキレバーを握りながらセルスイッチを押すとエンジンを始動させる事ができます。

点火カット
スイッチ



- ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが“ON”にある時、このボタンを押すとホーンが鳴ります。

- ターンシグナルスイッチ

ターンシグナルスイッチは右や左に曲がる時、または走行レーンを変更する時に使います。

イグニッションスイッチが“ON”位置でターンシグナルスイッチを右、または左にスライドさせるとターンシグナルライトが点滅します。

解除する時はターンシグナルスイッチを押して下さい。



左サイドターンシグナルライト点滅は左方向に曲がる事を表します。

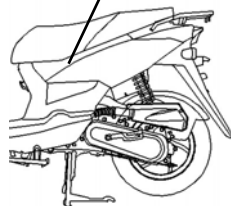


右サイドターンシグナルライト点滅は右方向に曲がる事を表します。

§トランクボックス§

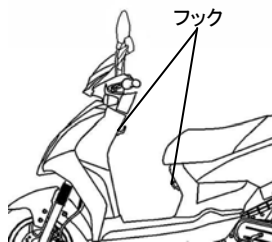
- シート下にトランクボックスがあります。
- 最大積載重量は **5kg** です。
- 貴重品は入れないで下さい。
- シートロックをした後は、ロックが確実にされているか必ず確認して下さい。
- 水濡れを避けるために洗車をする前には荷物は取り出してから行って下さい。
- エンジンの熱で温度が上がりますので、熱に弱い物はこの中には入れないで下さい。

トランクボックス



§フック§

- 小物をフックに掛けておく事が出来ます



⚠️ ご注意:

- 走行安定性に影響を与えますので重たいものは掛けないようにして下さい。

§燃料タンクキャップ§

1. キーをメインスイッチに挿入してシートを開いて下さい。そして燃料タンクキャップを反時計回りに回すとキャップは開きます。
2. ガソリンを補給する時は上限を超えて給油しないで下さい。
3. タンクキャップの“△”マークとボディ側の“△”マークが一致するまでタンクキャップを時計回りに回します。確実に閉めた後にシートをロックして下さい。

⚠️ ご注意:

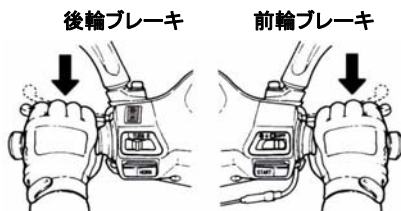
- メインスタンドで駐車して車両が安定している事を確認し、給油時はエンジンを必ず停止して下さい。燃料補給時は火気厳禁です。
- 給油の時は上限を超えて給油しないで下さい。ガソリンキャップのブリーザー穴から溢れて車体塗装を傷めたり、火災を起こす恐れがあります。
- キャップが確実に閉まっているか確認して下さい。

§ブレーキ§

- 不必要な急ブレーキは避けて下さい。
- ブレーキをかける時は前輪・後輪を同時に使い、バランスよくブレーキを使って下さい。
- 長時間連続してブレーキをかける事は避けて下さい。ブレーキが加熱し、制動効果が落ちます。
- 雨の日や、滑りやすい道路での走行の時は、スピードを落としてから早めにブレーキをかけて下さい。また、横滑りや転倒をしないように、急ブレーキは絶対にかけないで下さい。
- フロントブレーキだけ、リアブレーキだけかける事は二輪車の性格上、片側に引っ張られ転倒しやすくなります。片側だけのブレーキ使用は避けて下さい。

〈エンジンブレーキ〉

スロットルグリップを元の位置に戻して、エンジンブレーキを効かせて下さい。
長距離走行時や、急な坂などではエンジンブレーキとハンドブレーキを併用して下さい。

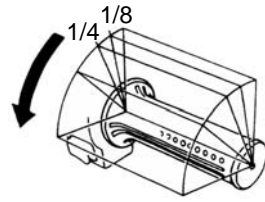


8.エンジン始動前の注意事項

⚠ ご注意:

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルとガソリンが充分にあるか、チェックして下さい。
- メインスタンドが安定した状態でエンジンを始動して下さい。車両が突然動き出すこともありますので、リヤブレーキをかける事を忘れないで下さい。

- 1.イグニッションスイッチを "ON" 位置まで回して下さい。
- 2.リヤブレーキをかけて下さい。
- 3.スロットルグリップを回さずにブレーキをかけた状態でスタータースイッチを押して下さい。
- 4.エンジンが冷えている時はしばらく暖機運転をして下さい。



【ご注意下さい! 動き出すまでリヤブレーキをかけたままにして下さい】

⚠ ご注意:

- スターターモーターを3~5秒回してもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを1/8~1/4ほど回してスタータースイッチを押して下さい。
- スターターモーターのダメージを避けるために、15秒以上連続してスタータースイッチを押し続けしないで下さい。
- スターターモーターを15秒回してもエンジンが始動しない場合は10秒経ってから再度エンジン始動をして下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のままに給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。スターターを何回も回す必要がありますが、スロットルグリップは回さずにエンジンを始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが温まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質(CO)が含まれています。よく換気のきいた所でエンジンを始動させて下さい。

【キックペダルでエンジンを始動する場合】

- ステップ1~2の後、スロットルグリップを閉じたまま、キックペダルをキックして下さい。
- エンジンが冷えていてキックペダルでの始動が困難な場合は、スロットルを1/8~1/4ほど回してあげると、始動がしやすくなります。
- エンジン始動後はキックペダルを元の位置に戻して下さい。

⚠ ご注意:

- キックペダルでエンジンを始動させる場合、車両をメインスタンドでしっかり安定させた状態で行って下さい。
- 時々キックペダルを使ってエンジンを始動するように心がけて下さい。長期間使用しないしていると正常な作動が出来なくなる恐れがあります。

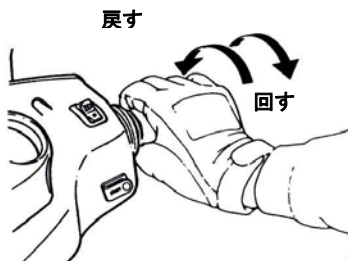
9.正しい走り方

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全をよく確認してからスタートしましょう。

§スロットルバルブコントロール §

回す：速度が速くなる。ゆっくり回しましょう。登り坂ではスロットルを徐々に回して力をつけましょう。

戻す：すばやく戻しましょう。急な下り坂ではエンジンブレーキを併用しましょう。



§停車するとき §

- **止まる場所が近づいたら：**

1. 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、徐々に左に寄りましょう。
2. スロットルグリップを元の位置に戻し、早めにブレーキをかけて下さい。(後方の車両に注意を促すためにもブレーキランプを点灯させて下さい)

- **車両が止まったら：**

3. 方向指示器を元の位置に戻して、イグニッションスイッチを“OFF”位置まで戻してエンジンを止めて下さい。(走行中はイグニッションキーを操作しないで下さい)
4. エンジンが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選びメインスタンドで駐車して下さい。
5. 左手でハンドルを持ち、右手でグリップを掴んで下さい。右足でメインスタンド左端部を踏み、車両を後方に引き上げるようにメインスタンドをかけて下さい。
6. メインスタンドがしっかり接地しているか確認して下さい。

ご注意下さい：盗難防止のため、車両停止後はハンドルロックをして、キーを必ず抜いて下さい

△ ご注意：

- 交通の妨げにならない、安全な場所に駐車するようにして下さい。

10.乗車前の点検とメンテナンス

§ 日常の点検 §

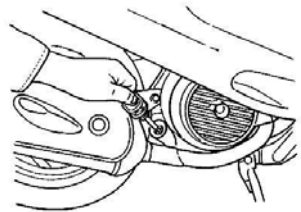
チェック項目		チェックポイント
エンジンオイル		エンジンオイル量は充分ですか？
ガソリン		量は充分ですか？レギュラーガソリン(90以上)以上ですか？
ブレーキ	前輪	ブレーキング状態は？ (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
	後輪	ブレーキング状態は？ (ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？ (標準: 1.75kg/cm ²)
	後輪	空気圧は正常ですか？ (標準: 2.0 kg/cm ² 1人乗車時, 2. 25 kg/cm ² 2人乗車時)
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に振動する。あるいは動かすのが重くないですか？
メーター、ライト、バックミラー		正しく作動しますか？ ライトは点灯しますか？後方ははっきり確認できますか？
車体各部の締め付け状態		ボルト、ナットに緩みはありませんか？
異常のあった箇所		以前のトラブルは直っていますか？

- △ ご注意:**
- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店又は、お近くの SYM 特約店に車両をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

§ エンジンオイルの点検と交換 §

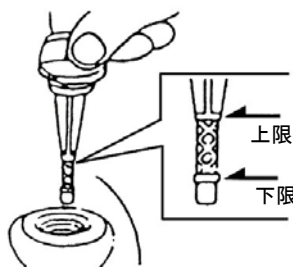
• 点検:

- メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を置いて下さい。エンジンを止めてから 3~5 分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭取った後に再度入れて下さい。(回転させない)
- レベルゲージを抜き取りオイルレベルが上限、下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- オイルレベルが下限より下の場合は上限までオイルを入れて下さい。(シリンダー、クランクケース等のオイル漏れを確認して下さい)



オイル交換:

- 最初の 300km 走行時にエンジンオイルは交換して下さい。以降 3000km 毎にオイル交換をして下さい。
- エンジンパフォーマンスを最大限に維持する為にも、エンジンオイル量は 500km 毎にチェックして、エンジンオイル量が不足している時は上限までオイルを補充して下さい。
- エンジンオイル：(API) SL/CF SAE 10W-30 グレード以上のものをご使用下さい。低グレード、低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象にはなりませんので、ご注意ください。
- オイル容量：0.85 リットル (交換時容量 0.75 リットル)
- オイルフィルター交換時: 0.75 リットル



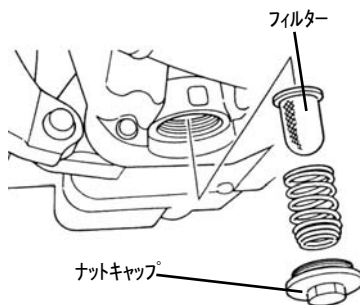
【オイルフィルター清掃】

オイルフィルターナットキャップ ASSY を開けて、オイルフィルターを取り出します。ガソリン又はエアガンを使ってきれいに清掃して下さい。



警告:

- 車両が平坦でない所に止められた時や、エンジンを止めてすぐにオイル量を点検しても、正しいオイルレベルは確認できません。
- エンジンを止めてすぐはエンジンもマフラーも熱くなっています。エンジンオイルの点検や交換時はヤケしないように特に注意して下さい。
- オイルを補充してもすぐに下限になってしまう場合はエンジンオイルの漏れをチェックしてエンジンオイルを補充するようにして下さい。
- オイルを補充する時は火気に注意して下さい。



§ガソリンの点検§

- メインスイッチを“ON”位置にして、燃料計によりガソリンが充分にあるかどうかチェックして下さい。
- この車両は無鉛レギュラー(オクタン価 90 以上)を使用する前提で製造されています。
- 給油の際は、メインスタンドで安定した場所に車両を止め、エンジンを切って火気の無い状態で給油して下さい。
- 給油の時は、上限を超えて給油しないで下さい。
- ガソリン給油口のふたがしっかり閉まっているか確認して下さい。

§トランスミッションオイルの点検と交換§

点検:

- 水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから 3~5 分待つて下さい。トランスミッションオイルインフュージョンボルトを外し、ドレンボルトの下に計量グラスを置いてからドレンボルトを外して下さい。出てきたオイルを計量してオイル量の点検をして下さい。(全容量:110c.c/交換時:90~100c.c.)

オイル交換:

- エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を止めて下さい。インフュージョンボルトとドレンボルトを外してオイルを抜き取って下さい。
- ドレンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。新しいトランスミッションオイル(90~100c.c.)を入れて下さい。インフュージョンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。(ボルトがしっかりと締まっているか、オイル漏れが無いかを確かめて下さい)
- 推奨オイル: SYM 純正 HYPOLD GEAR OIL (SAE 85W-140).
*外気温度が 0°C になる地域では SAE 85W-90 をお使い下さい。

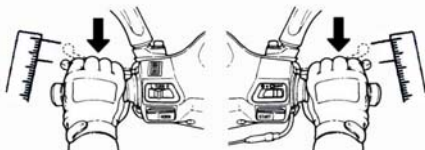
§ブレーキの遊びの点検と調整§

点検: (ブレーキレバーの遊びの点検はエンジンを止めてから行って下さい)

• 前後輪のブレーキレバーの遊び

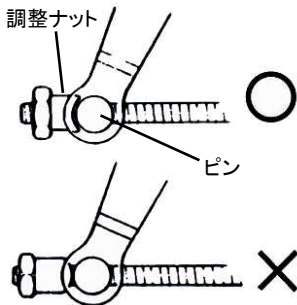
- ◆ 全後輪のブレーキの点検をする時は、遊び(ブレーキレバーを握ってからブレーキが利き始めるまでのストローク)は10~20mmです。かいっぱいブレーキレバーを握った時にやわらかく、ふわふわする感じの場合は異常です。

10~20 mm



調整: (ドラムタイプ)

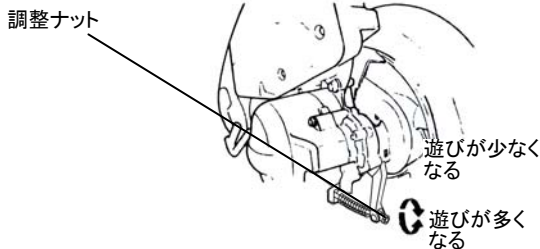
- ブレーキ調整ナットを締めると、ピンは直線的に動きます。(下記図参照)



⚠️ ご注意:

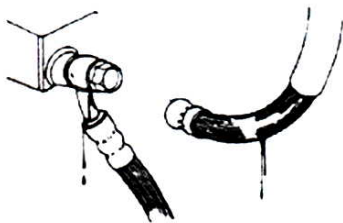
遊びが 10~20 mm 以上の時は後輪のブレーキインジケータを調べて下さい。ブレーキレバーをいっぱい引いてブレーキアームの矢印とブレーキパネルの“△”マークが一致していればブレーキライニングの交換時期ですので、交換して下さい。ブレーキライニングの交換は SYM 特約店にご相談下さい。

- 後輪のブレーキアームの調整ナットを回して、リヤブレーキの遊びを調整して下さい。
- 調整後はブレーキを握ってみて、ブレーキの効き具合を確認して下さい。
- スケールなどを使って遊びを測って下さい。



後輪ドラムタイプ

§ディスクブレーキの点検(ディスクブレーキ装着車に適用)



(ブレーキの漏れ、損傷、緩み)

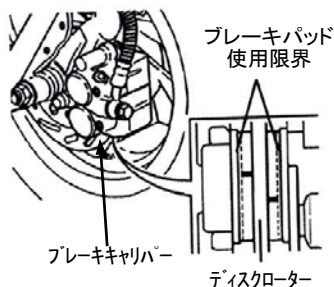
・目視にてブレーキラインの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキラインの接続部の緩みが無いかを確認して下さい。ステアリングハンドルの振動がないか、ブレーキラインに損傷を起こしそうな部分をチェックして下さい。万一異常があれば車両を SYM 特約店にお持込になり、修理を依頼して下さい。

⚠️ ご注意:

- ・お客様の車両が最適の状態 で安全に走行できるかを確かめる為に、乾燥路面でゆっくりと車両を走らせ前後輪ブレーキを操作し、不具合が無いかを確認して下さい。

(前輪ブレーキの点検)

- ・ブレーキキャリパーの後方からブレーキパッドを点検して下さい。ブレーキパッドの使用限界部分がディスクローターに当たっている場合はブレーキパッドを交換して下さい。

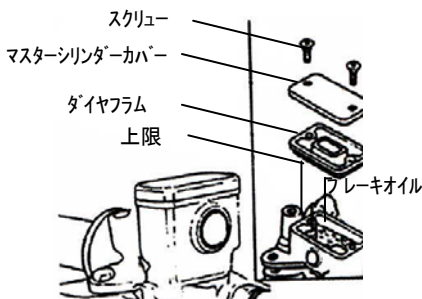
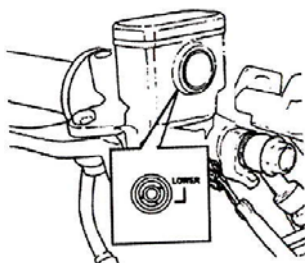


(前輪ブレーキオイルの補充)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを外して下さい。
2. リザーバー周りの異物や汚れを拭取って下さい。リザーバーの中に異物が入らないように慎重に行ってください。
3. ダイアフラムを外して下さい。
4. ブレーキオイルを上限まで補充して下さい。
5. ダイアフラムを取付けて、マスターシリンダーカバーを付けて下さい。(ダイアフラムの向きに注意して下さい)
6. リザーバー内に異物が入らないように注意しながら、マスターシリンダーカバーをしっかり閉めて下さい。

(ブレーキリザーバーの油量点検)

- ・車両を安定した場所に止めて、オイルレベルが“LOWER” マークを下回っていないかチェックして下さい。
- ・使用オイル: BRAKE OIL (DOT 3).



⚠️ ご注意:

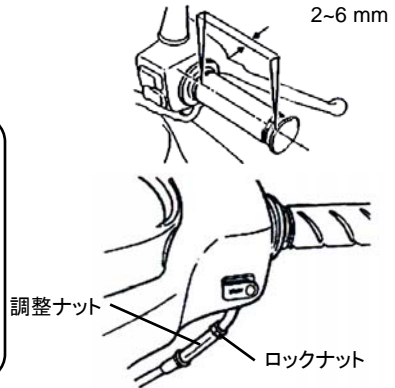
- ・異なるブレーキオイルを混ぜて使用しないで下さい。変質したり、ブレーキ装置の故障の原因になることがあります。
- ・ブレーキオイルを補充する時は上限を超えて補充しないで下さい。車両塗装を傷めるので塗装部分やプラスチック部にオイルが付着しないようにして下さい。

§スロットルバルブクリアランスの調整 §

- 2-6mm の遊びでクリアランスを調整して下さい。
- ロックナットを緩めて、調整ナットを回して調整して下さい。調整後はロックナットを締めて下さい。

点検項目:

1. スロットルが閉じた状態から開いた状態までスムーズに動かすかケーブルをよく確認して下さい。
2. スロットルケーブルが邪魔していないか、ハンドルを左右に動かして確認して下さい。
3. スロットルケーブルが干渉したりしていないかよく確認して下さい。

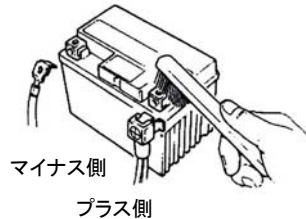


§バッテリーの点検とメンテナンス §

- この車両には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万一異常があった場合はSYM 特約店にご相談下さい。

(バッテリーターミナル清掃)

- バッテリーを取り外し、ターミナルの汚れ、腐食を清掃して下さい。
- バッテリー取外し手順:
イグニッションスイッチを“OFF”にします。先にマイナス側ケーブルを外し、それからプラス側ケーブルを外します。



⚠️ ご注意:

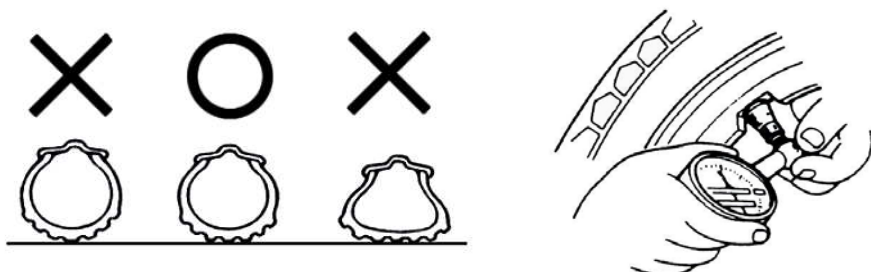
- バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付着している場合はぬるま湯で端子を清掃します。
 - 端子の腐食が激しい時はケーブルを外し、金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
 - 清掃後は端子に薄くグリスを塗り、バッテリーケーブルを取り付けて下さい。
 - 取付け時は取外しと反対の手順で取付けして下さい。
- この車両には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーが装備されています。バッテリー液の補充は不要です。

⚠️ ご注意:

- 密閉タイプのバッテリーです。キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないしていると、漏電、自己放電で使用不能になります。長時間使用しない場合は車両より取外し、充電後通風のある冷暗所で保管する事が望ましいです。車両に搭載したままの場合はマイナスケーブルを外すようにして下さい。
- バッテリーを交換する時は同サイズで必ず密閉タイプのメンテナンスフリータイプバッテリーをご使用下さい。

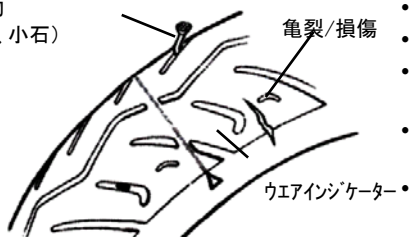
§タイヤの点検 §

- エンジンを止めてからタイヤの点検や空気圧の補充をおこなって下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、エアゲージでチェックのうえ、指定圧まで空気を入れて下さい。
- タイヤ空気圧はエアゲージでタイヤが冷えている状態で測定して下さい。



標準タイヤ空気圧のスペックをご参照下さい

異物
(釘、小石)



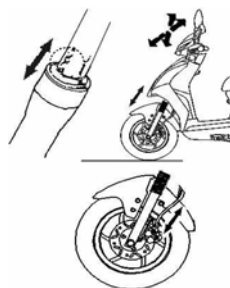
- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい。
- タイヤ溝に釘や小石が噛んでいないか確認して下さい。
- トレッドグローブが充分かどうか、トレッドウエアマークをチェックして下さい。
- ウエアバーが見えているタイヤは磨り減っていますので、すぐに交換して下さい。

⚠ ご注意:

- タイヤの異常空気圧、磨耗、亀裂はステアリング操作に影響を及ぼしたり、パンクの原因にもなります。

§ステアリングハンドル/フロントショックアブソーバーの点検 §

- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- サスペンションに損傷が無いか確認して下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか確認して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締め具合を確認して下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らしてみ、ガタや過剰な抵抗、一方に引っ張られたりしないか確認して下さい。
- プレーケーブル等によりハンドルが取られないか確認して下さい。
- 万一異常があった場合は SYM 特約店で点検修理をお受けになって下さい。

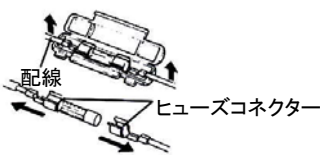


§ヒューズの点検と交換 §

イグニッションスイッチを“OFF”にしてヒューズを確認して下さい。ヒューズが切れている場合は同じアンペア数(7A)の新しいヒューズに取替えて下さい。指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱や焼損の原因にもなりますので、絶対にしないで下さい。電気回路システムを破損する恐れがあります。

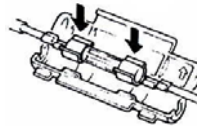
- バッテリーカバーを取外すと、バッテリーの近くにヒューズホルダーがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを引き抜いて下さい。そしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
- 取替える時、ヒューズはコネクターにしっかりと固定させて下さい。接続が緩いと、接触不良や損傷を与える原因になります。
- ライト球のような電気部品を交換する時は規格に合った部品を使用して下さい。交換された部品が規格に合っていないと、ヒューズ切れやバッテリーあがりを起こす恐れがあります。
- 車両を洗車する時はヒューズボックスに水がかからないように注意して下さい。
- ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因が不明で切れてしまう場合はお買い求めのSYM特約店に車両をお持ちいただき、点検してもらって下さい。

【取外し】



【取付け】

上部より押し入れる



§方向指示器とホーンの点検 §

- イグニッションスイッチを“ON”位置にして下さい。
- 方向指示器のスイッチを動作させて前後左右のライトの点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。
- ホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認して下さい。

⚠ ご注意:

- 方向指示器ライト球は規定の規格バルブを使用して下さい。もし異なった規格のバルブを使用すると通常の方向指示器の作動に支障が生じる恐れがあります。
- 後続車に注意を促す為に、方向転換やレーン変更の前には必ず方向指示器を点けて下さい。
- 方向指示器は使用後はただちに解除して下さい。点滅させたままですと、他の車両に迷惑を与えますのでご注意下さい。

§フロント及びリアライトの点検 §

- エンジンを始動してヘッドライトとリアテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

§ブレーキライトの点検 §

- イグニッションスイッチを“ON”位置にして前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキライトの点灯を確認して下さい。
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。

⚠ ご注意:

- 必ず規定規格のバルブを使用して下さい。もし、異なった規格のバルブを使用すると、電気システムに不具合が生じたり、バルブ焼けやバッテリー放電を起こす恐れがあります。
- 過放電やショートを避けるために、電気回路の改造や、追加をしないで下さい。火災や車両焼失につながる恐れがあります。

§ガソリン漏れの点検§

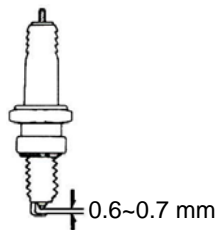
- ガソリンタンク、給油口キャップ、ガソリンホース、キャブレターの漏れを点検して下さい。

§車体各部の給脂状態の点検§

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
(メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーのピボット部等)

§スパークプラグの点検§

- プラグキャップを外して、プラグを取外します。(車載ツールキットのプラグレンチを使って外して下さい)
- 電極の汚れ、カーボンの付着による汚れが無いか確認して下さい。
- 電極のカーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンでスパークプラグを洗浄して、最後に布で拭取ってよく乾かして下さい。
- 電極すき間を点検してギャップを 0.6~0.7 mm に調整して下さい。(測定はギャップツールを使用して下さい)
- スパークプラグは手で締めた後にレンチでさらに 1/2~3/4 回転締付けて下さい。



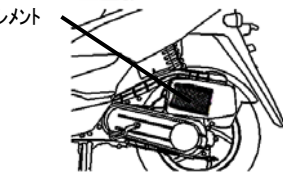
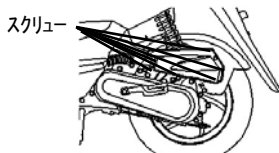
⚠ 警告:

走行後のエンジンは大変熱くなっています。ヤケドをしないように十分に注意して下さい。
※メーカー推奨のエンジンスペックに適合したスパークプラグを使用して下さい。(諸元表参照)

§エアクリーナーの点検 §

《取外し手順》

- エアクリーナーカバーからマウンティングスクリューを外して下さい。
- エアクリーナーカバーを外してエレメントを取外して下さい。
- エレメントを清掃して下さい。(メンテナンススケジュール参照)



《取付け手順》

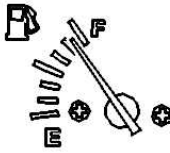
- 取外し時の逆手順にて取付けをして下さい。

⚠ ご注意:

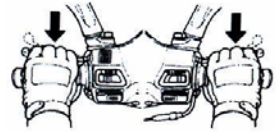
- エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費の悪化を招きます。
- 空気の汚れた道を走行する事が多い場合、通常よりもエアクリーナーを頻繁に清掃または交換して下さい。
- エアクリーナーが正しく装着されていないとゴミやほこりがシリンダー内に吸入され、シリンダーの早期磨耗や出力減少を起こし、エンジン耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けて下さい。
- 車両を洗車する時はエアクリーナーに水を入れないで下さい。エンジンの始動が出来なくなったり、故障の原因になる恐れがあります。

11.こんなときは・・・

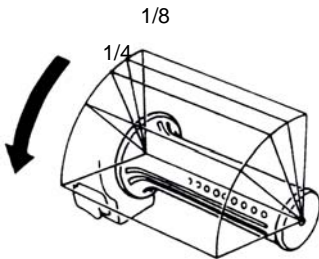
§エンジンが始動しないとき §



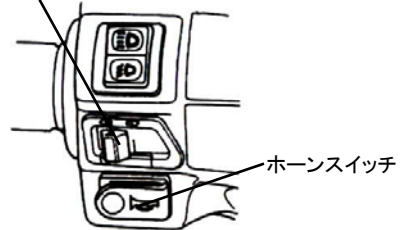
リアブレーキ フロントブレーキ



- (1). イグニッションスイッチは“ON” (2). ガソリンの残量は充分ですか？ (3). スタータースイッチを押す時に前または後ブレーキをかけていますか？



方向指示器スイッチ



- (4). スタータースイッチを押しながら、スロットを回し過ぎていませんか？ (5). イグニッションスイッチを“ON”位置にしてホーンスイッチを押して下さい。ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。

【上記に該当するところが無くエンジンが始動しない場合は、すぐにお買い求めの SYM 特約店にご連絡のうえ、車両をお持ちになり点検修理をお受け下さい】

12. C.D.I. 点火システム

C.D.I 内のコンデンサーに電気エネルギーを蓄積し、点火時に放電する事により、IG コイルに通電させ高電圧を発生させます。C.D.I 点火システムは始動性、耐かぶり性などにすぐれています。

13. ガソリンについて

- このスクーターはオクタン価 90 以上の無鉛ガソリンで使用されるように設計されています。
- 高地(気圧が低い所)でこのスクーターを使用する場合は、エンジン性能を最大限に発揮するためにキャブレターの調整をされる事をお勧めいたします。

14. トランスミッションオイル

- 推奨オイル: SYM 純正 HYPOID GEAR OIL (SAE 85W-140)
- 外気温度が 0°C 以下になる地域では SAE 85W-90 のご使用もできます。

15. 運転時のご注意

1. メインスタンドをあげて車両を起し、シートに座って下さい。
メインスタンドをあげる時は車両を前に押し出して下さい。

ご注意:

- 始動時にエンジン回転を上げるために無理にスロットルを開けないで下さい。

2. 車両の左側から乗車して、車両を倒さないように足をしっかり地面につけて正しくシートに座って下さい。

ご注意:

- 始動前に後輪のブレーキをかけて下さい。

3. スロットルバルブをゆっくり回すと車両は動き始めます。

ご注意:

- 急激なスロットルバルブの操作は車両が突然発進し、大変危険です。
- 始動前にパーキングスタンドがしっかり戻っているか確認して下さい。

【急ブレーキはかけないで下さい。転倒を引き起こします】

- 急ブレーキと急ターンはスリップや転倒を引き起こします。
- 雨の日のような路面の濡れている時に急発進や急ブレーキは、スリップや横すべりを起こし転倒する原因になります。

【雨の日は特に注意して走行して下さい】

- 雨の日や濡れた路面でのブレーキの制動距離は乾燥路面と比べて長くなります。スローダウンするか、早めのブレーキ操作をして下さい。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用して安全運転を心がけて下さい。

16. 定期メンテナンススケジュール

項目	点検項目	メンテナンス キロメートル	300KM	1000KM毎	3000KM毎	6000KM毎	12000KM 毎	備考
		メンテナンス期間	新車時	1ヶ月毎	3ヶ月毎	6ヶ月毎	1年毎	
1	エアクリナーエレメント (備考)		I	C		R(濾紙)	R(スポンジ)	
2	エアクリナー		I					
3	オイルフィルター (スクリーン)		C			C		
4	エンジンオイル		R	以降1000KM毎に交換				
5	タイヤ空気圧		I	I				
6	バッテリー		I	I				
7	スパークプラグ		I		I		R	
8	キャブレター (アイドリング回転)		I			I		
9	ステムベアリング、ハンドル		I		I			
10	トランスミッションオイル漏れ		I	I				
11	クランクケースオイル漏れ		I	I				
12	トランスミッションオイル		R	以降5000KM毎(5ヶ月毎)				
13	ドライブベルト、ウエイトローラー					I	R	
14	燃料漏れ		I		I			
15	スロットル操作、ケーブル		I	I				
16	エンジンボルト、ナット		I		I			
17	シリンダーヘッド、シリンダー					I		
18	排気システム/カーボン清掃					I		
19	カムチェーン/点火時期		I		I			
20	バルブクリアランス		I			I		
21	ショックアブソーバー		I			I		
22	フロント/リヤサスペンション		I			I		
23	メイン/サイドスタンド		I			I/L		
24	クランクケースブローバイシステム		I		I			
25	クラッチウエイト					I		
26	ブレーキシステム/ブレーキシュー (パッド)		I	I				
27	車体各部ボルト/ナット		I	I				

☆上記メンテナンススケジュールは1000km毎を参照ベースとしてたてられています。
 ※車両のコンディションを最適な状態に保つためにもSYM特約店に車両をお持ちになり、定期的な点検と調整をお受け下さい。

記号: I ~ 点検、清掃及び調整
 R ~ 交換

C ~ 清掃 (必要に応じて交換)
 L ~ 給油

備考: 1. ぼこり道、環境汚染のひどい地区での使用車両はエアクリナーの清掃交換はより頻繁におこなってください。

2. 総走行距離が多い車両はメンテナンスはより頻繁におこなってください。

【備考欄は適用モデルの仕様を表しています】

17. 諸元表

項目	モデル	AV05W1-7
	スペック	
全長		1905mm
全幅		690mm
全高		1125mm
ホイールベース		1327mm
乾燥重量		99kg
エンジン方式		4- ストローク単気筒強制空冷エンジン
燃料		無鉛レギュラーガソリン (オクタン価90以上)
冷却方式		空冷
総排気量		49.4 c.c.
圧縮比		11.8±0.4 :1
最大出力		2.35 kw/8500 rpm
最大トルク		2.91 N.m/6500 rpm
始動方式		セルモーター & キック式
フロントサスペンション		テレスコピック
リヤサスペンション		ユニットスイング
クラッチ		遠心クラッチ方式
変速機構		CVT
フロントタイヤ		120/70-12
リヤタイヤ		130/70-12
ホイール		アルミニウム
タイヤ空気圧		フロント: 標準 2.00 kg/cm ² , リヤ: 標準 2.00kg/cm ² 1人乗車時, 2.25kg/cm ² 2人乗車時
フロントブレーキ		ディスクタイプ (Ø 190 mm)
リヤブレーキ		ドラムタイプ (Ø 130 mm)
ヘッドライトバルブ (ハイ/ロー)		HS1 12V 35/35W
ブレーキライトバルブ		12V 21W
ライセンスライトバルブ		12V 5W
方向指示器ライトバルブ		12V 10W
メーター照明ライトバルブ		12V 1.7W
エンジンオイル容量		0.85 L (0.75 L 交換時)
トランスミッションオイル容量		110c.c (100c.c 交換時)
燃料タンク容量		5.2L
ヒューズ		7A
スパークプラグ		TORCH A7RC
バッテリー容量		12V 6Ah(密閉タイプ、メンテナンスフリーバッテリー)
エアクリナー		濾紙タイプ
燃料タンクキャップ		クローズロック式
リヤキャリア		最大積載量3kgまで



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。